

法人（事業所）理念		全社員の物心両面の幸福を追求すると同時に、子どもたち家族の輝くみらいのために共に歩み、社会の進歩発展に貢献する											
支援方針		発達の基礎から「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域支援の視点で個に合わせた支援をします。自主性の遊びを通して「あたま・こころ・からだ」の発達を促し、仲間と一緒に挑戦や達成感が得られる環境の中で生きる力・人間力を高めます。											
営業時間		平日	11	時	00	分から	20	時	00	分まで	送迎実施の有無	あり	なし
学校休業日		9		時	00	分から	18	時	00	分まで			
支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	身体感覚の使い方を知ることができる活動・遊びの中で、食事・排泄・着脱・睡眠・お片付け等身辺自立に関係する動きを余分なエネルギーを使うことなくスムーズにできるよう、身体の土台作りからサポートします。また、素早く身体力になる水で水分補給を行うことで呼吸を整え、発達の土台作りをします。さらに、学校で学習や姿勢保持などでエネルギーを使った後の素早い栄養補給としてののにぎり、咀嚼から口腔発達、言語発達を促すためのにぼしや昆布を平日のおやつとしています。学休日には季節のフルーツや野菜、パンなどを買い物支援として買いに行ったり、食べ方や栄養の話をする事で食育面での経験作りができるようにしています。また、雑巾がけやコップ洗い、テーブルセッティング、イベント準備、洗濯干し・たたみ、遊具の片付けなどを通して生活スキルに関する経験作りや挨拶等のマナーを知る等自立に向けた支援を行います。											
	運動・感覚	学習・言語コミュニケーションは、発達の土台となる「呼吸」「感覚（五感・固有受容覚・前庭覚）」「動き・姿勢」からアプローチしていき、子どもが持つ本来の力を発揮できる身体が整うことで発達をしていきます。特に感覚の過敏さや鈍麻さによる過ごしにくさや、集中して座り続ける姿勢保持の力、ボディイメージ未形成による力加減の難しさは学校生活や生きていく上での大きな課題に繋がりがやすく、さらに、初めての事や難しい・怖いと感じる場面においては、身を守るための反射反応（思考、行動の停止・逃避行動・攻撃行動）を起こしやすいため、安心・安全の環境のなかで「楽しい」と感じられることを大切にしています。『遊びの中にこそ、子どもたちの発達があります』											
	認知・行動	外部からの情報・感覚がスムーズに入力され、脳からの指令を正しく伝達（認知）、行動へ移すことができる身体は発達の土台を整えることで作ることができます。遊びは発達の基礎作りをすることができ、そのなかでルールの話し合いの経験や問題解決に向けての話し合いを行うことで、情報に対して自らの行動を選択する経験や行動へ移す経験ができます。また、問題解決にいたるまでの手立てと一緒に考えたり、視覚化支援をしてスムーズに解決ができる環境づくり（荷物の整理整頓方法、問題に関して紙面への書き出し等）をしています。不適切行動があった場合には、適切な行動への修正や子どもたち自らがクールダウン方法を選択できるようにサンルームや学習室等の落ち着いた場所の提供や水分補給、深呼吸等の切り替え方法の提案をしています。											
	言語 コミュニケーション	脳の中で言語を司るのは前頭葉となり、前頭葉へは耳の中にある三半規管等の前庭器官へ回転や傾き等の刺激を入れることで言語発達を促すことができます。これらの前庭覚刺激は遊びの中で楽しく経験ができ、子どもたちがやりたい遊びをやりきることによって感覚統合し、言語発達へと繋がっていきます。遊びやイベントの中で気持ちを言語化する機会を作ることで、代弁等を通して適切なやり取りや言葉の選択を学び、子どもたち自身が体験したことを次につなげられるような言葉がけや場面提供をしています。また、自分の気持ちの言語化をしやすいための視覚化支援として「心の天気」「ゾーンオブレギュレーション」を用いています。気持ちを適切に発信できた、また、自ら選択をする経験を積むことが将来を見据えた支援となるようにしています。											
	人間関係 社会性	子どもたちが安心・安全と感じられることで人間関係の構築や社会性を育むことができます。まずは安心・安全の環境を整えるとともに、個の遊びや小集団、集団遊び等色々な遊びを自分で選択して参加ができる環境の中で自分の強みを知る機会づくりや「できた」を経験できる場面提供をしています。挑戦して「できた」の経験が自尊心や自己肯定感を育て、人間関係の構築に繋がります。また、遊びの中での譲り合い、折り合いをつける、謝る、説明する体験を通して協調性や社会性を育めるようにしています。											
家族支援		事業所内、家庭訪問での相談支援を適宜行っています。また、日々の申し送りや連絡帳での情報共有や相談支援、みらいだよりでの情報発信をしています。さらにお茶会（保護者交流会）を月に1度行い、その中で発達に関する勉強会や感覚・運動・イベント体験や保護者同士の交流の場の提供をしています。								移行支援		買い物体験を定期的に行い、買うものについての質問やレジでのやりとり、また、散歩や公園への外出時に挨拶を通して地域の方々や繋がりが持てるような機会を設けています。退所後の生活を見据えた情報提供を保護者や本人に行うとともに、関係機関への情報共有や連携を行います。	
地域支援・地域連携		利用する子どもが地域で適切な支援を受けられ、地域に居場所を持つことができるよう、学校・医療機関・児童相談所・児童館等と連携を図ります。								職員の質の向上		定期的に事業所内外の研修に参加し、また、事業所間で支援の質を保つための情報交換や事例検討を行うミーティングの実施をしています。毎日の支援前に個に合わせた目標設定をし、支援後には振り返りを行うことで次につなげる支援方法の共通認識が持てるようにしています。支援にあたる上で指導員同士でロールプレイを行う等様々な事例への対応ができるようにしています。	
主な行事等		（定期開催の行事）1月：初詣 3月：年度末お楽しみ会 4月：新入生歓迎会 5月：子どもの日 8月：夏祭り 10月：運動会 12月：クリスマス会、紅白歌合戦（忘年会） （不定期開催の行事）おやつ作り、クッキング 外出 買い物体験 きょうだい参加イベント 事業所交流											